

本を読むことの好き嫌いと読書活動の相関性

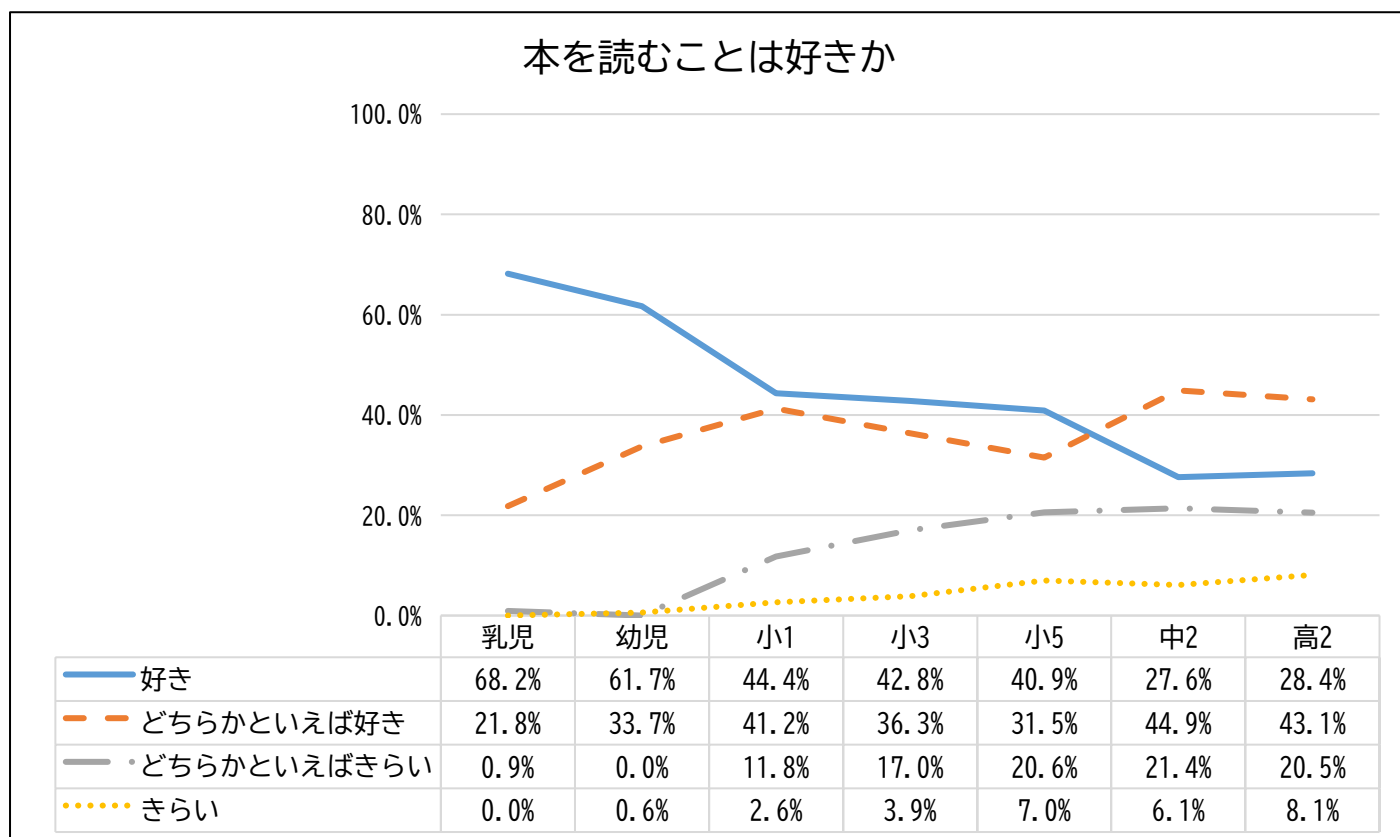
1 設問

「本を読むことは好きですか。」

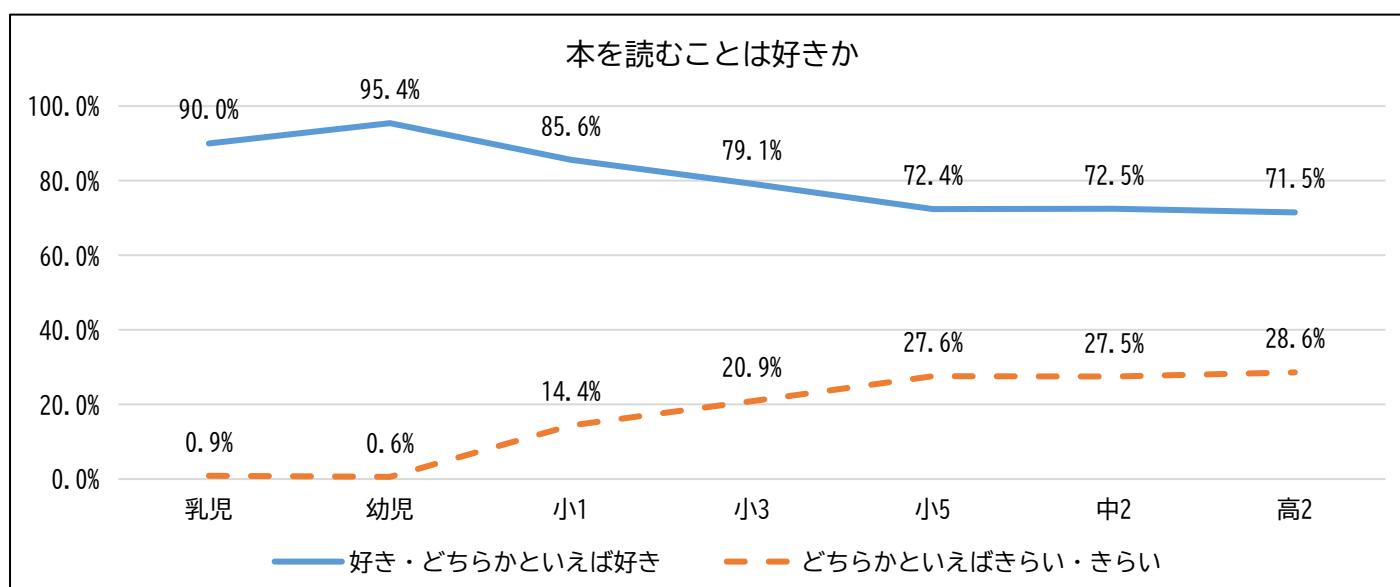
2 回答からの傾向

- (1) 年齢が上がるにつれ、本を読むことが好きな人が増えていく。小学校高学年頃から、読書が好きな子と好きな子とで分かれ、読書へのイメージが固定されていく。
- (2) 中学生・高校生になると、本を読むこと自体は好きだが、本を読まない人が増える。

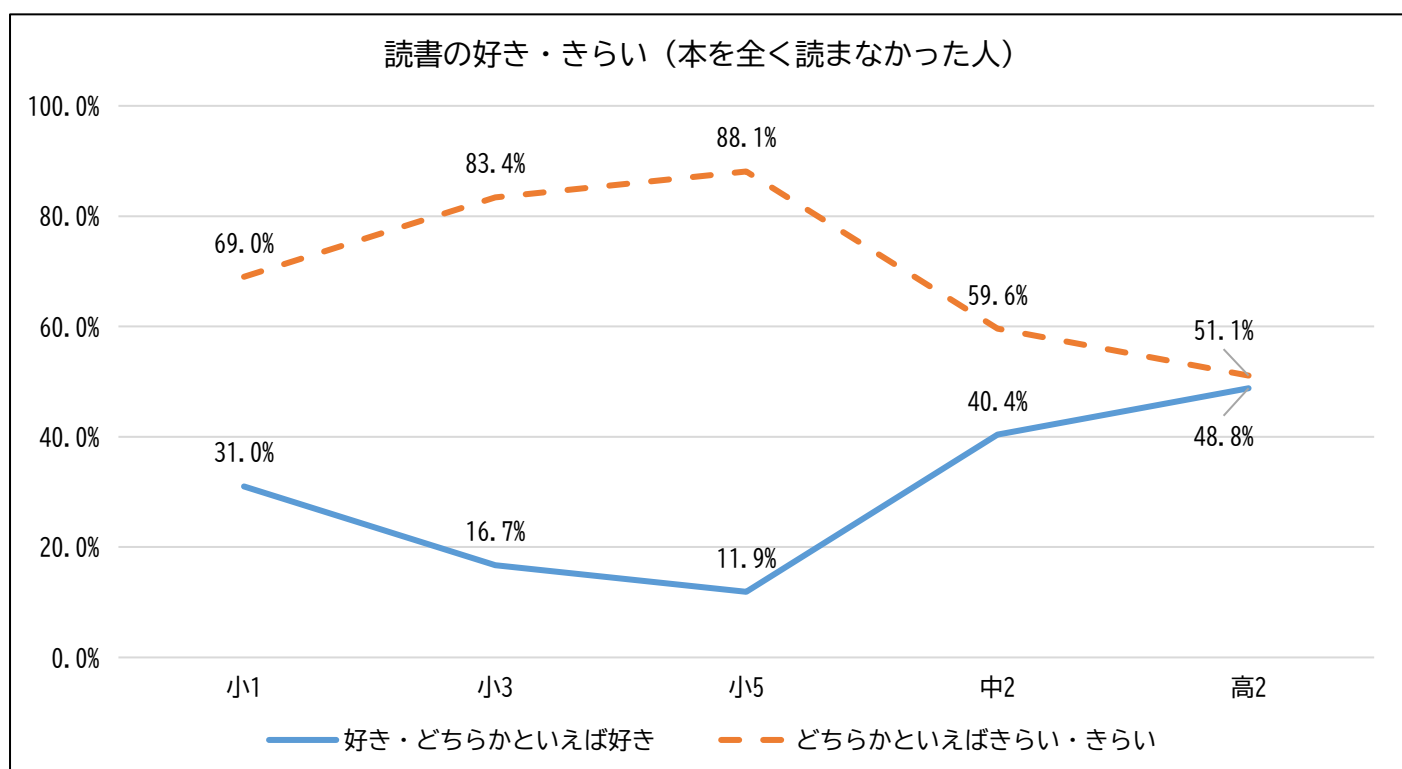
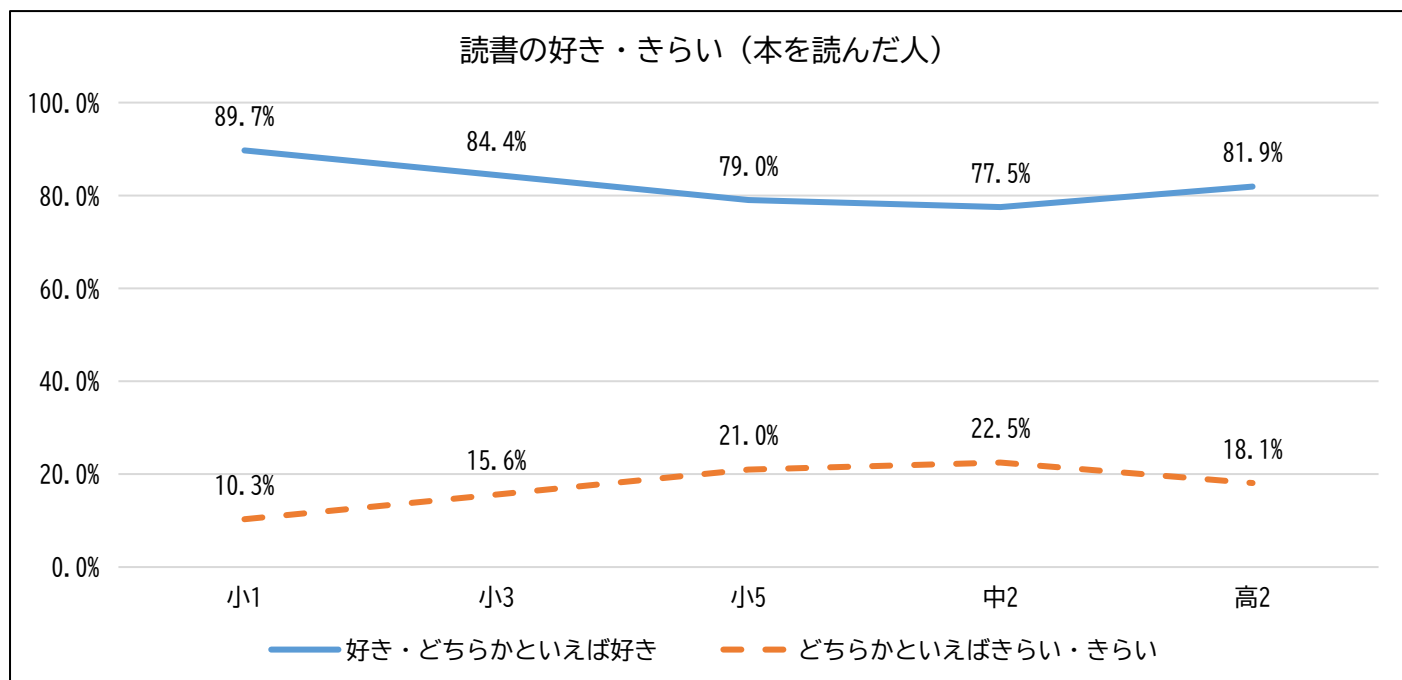
3 集計結果



(参考) 「好き・どちらかといえば好き」「嫌い・どちらかといえば嫌い」でまとめたもの



以下、クロス集計（「読書の好き／きらい」と「本を読んだ／読まなかった」）



本を読んだ人の「読書の好き／きらい」の数値は、ほぼ横ばいである一方、本を全く読まなかった人では、回答者の年齢で大きな違いが見られる。

小学校高学年までは、本を全く読まなかった人のうち、本が好きだと回答した人の割合は低いが、中学生・高校生になると、読書は好きだが本を全く読まなかった人が増える。

学校図書館や児童館等の日常的な活動場所における環境整備の重要性

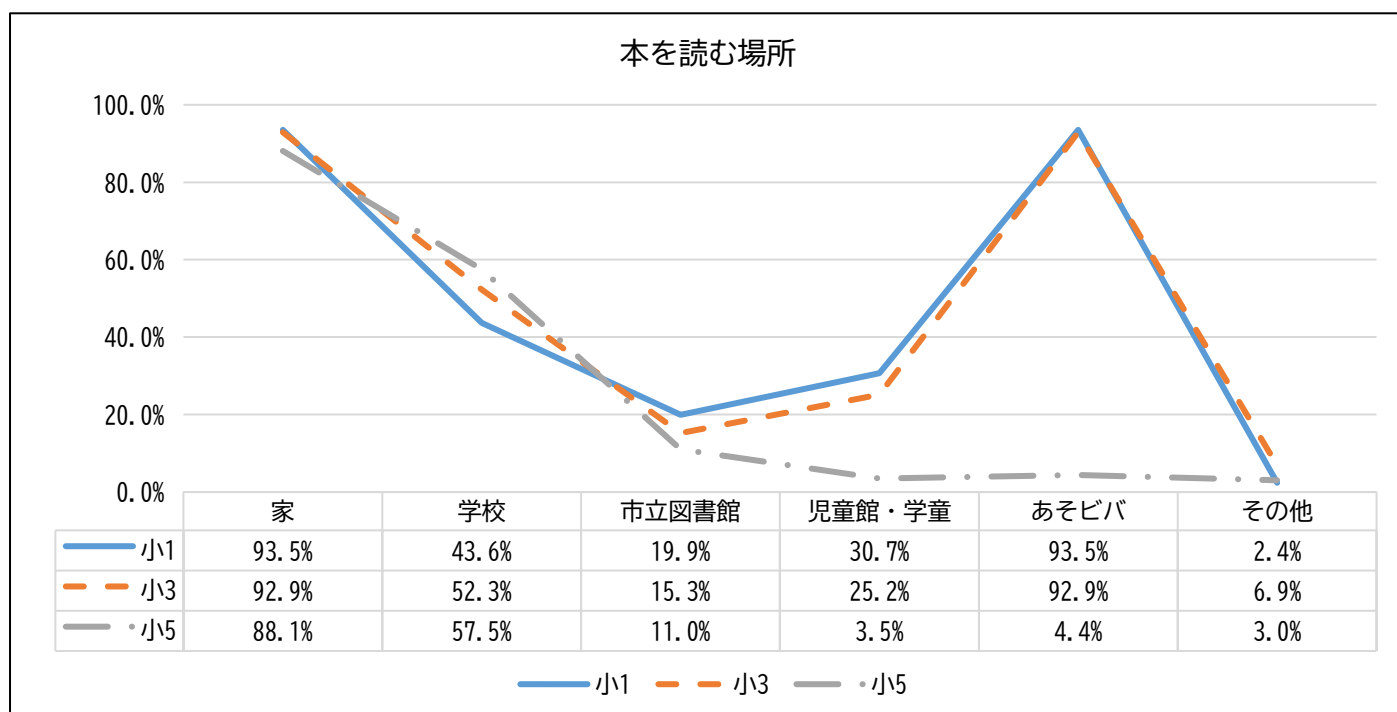
1 設問

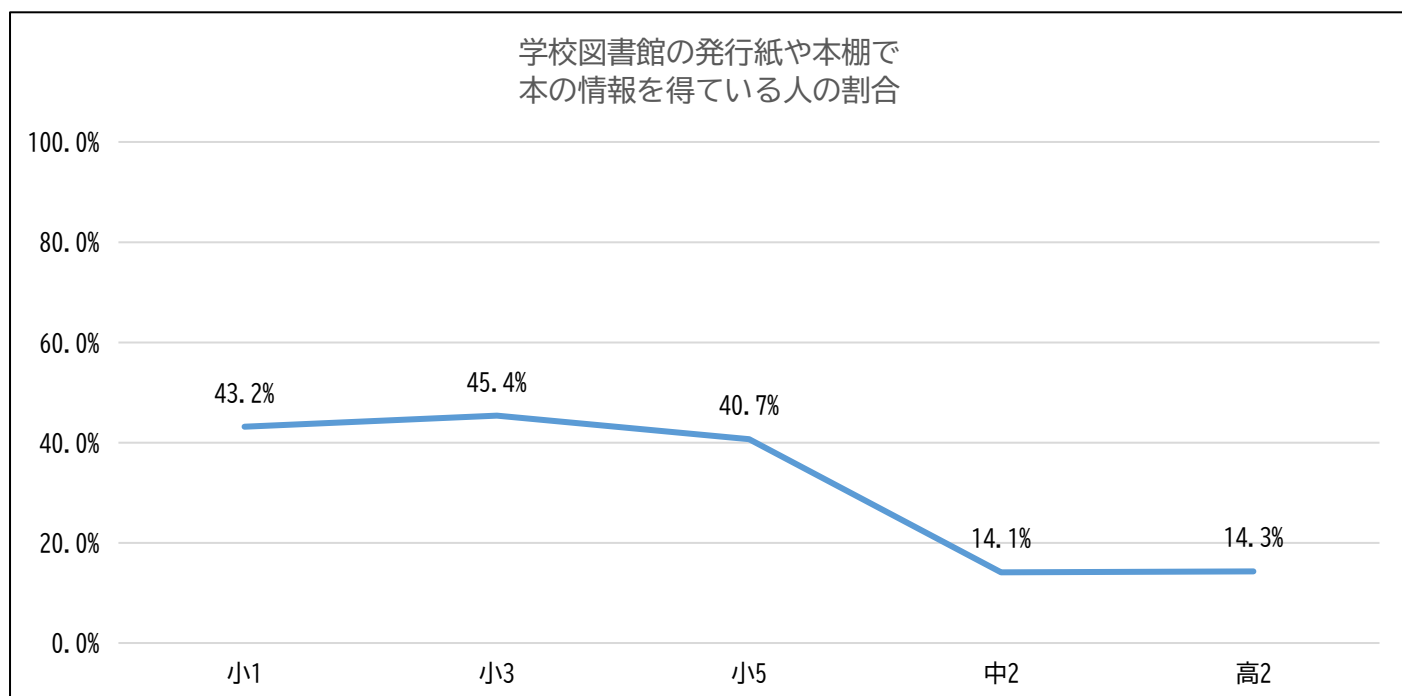
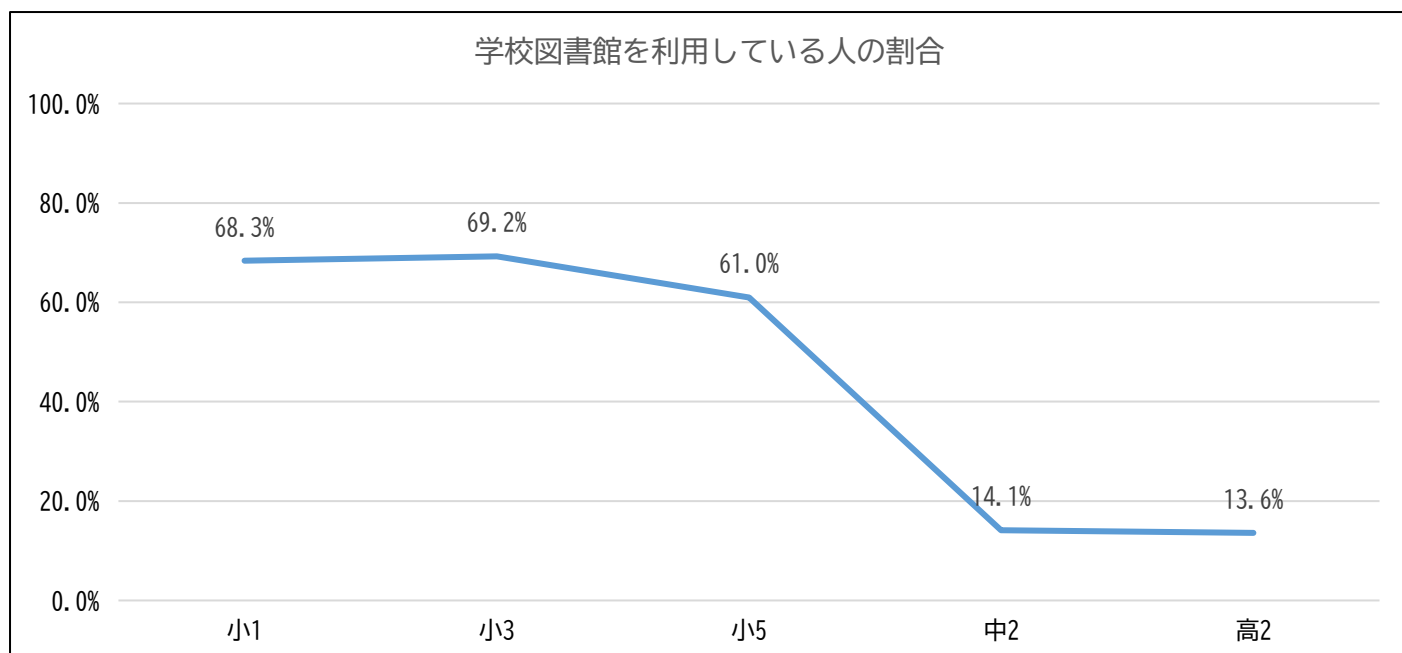
- (1) 「お子さんは、普段どこで本を読んでいますか。(いくつでも)」※小学生のみ
- (2) 「(お子さん(中高生は回答者本人)について、)あてはまるものを選んでください。(いくつでも)」
→「学校図書館を利用している」の回答者
- (3) 「本の情報をどこから得ていますか。(いくつでも)」→「学校図書館の発行紙や本棚」の回答者

2 回答からの傾向

- (1) 小学生は学校で本を読むことが多く、6割以上は学校図書館を利用している。
- (2) 小学校中学年までは、児童館・学童やあそびバで本を読む子どもが多い。施設内に低～中学年向けの本を充実させるなど、読書環境を整備する取組に効果がありそう。
- (3) 中学生・高校生になると、学校図書室の利用者は少なくなる。

3 集計結果





(参考) 年代別回答上位の比較

	乳児(保護者)	幼児(保護者)	小1	小3	小5	中2	高2
1位	各種 SNS・インターネット	各種 SNS・インターネット	学校図書館の発行紙や本棚	学校図書館の発行紙や本棚	身近な人からの紹介	各種 SNS・インターネット	各種 SNS・インターネット
2位	市立図書館の紹介(展示やおすすめの本のリスト含む)	市立図書館の紹介(展示やおすすめの本のリスト含む)	身近な人からの紹介	書店で見て	学校図書館の発行紙や本棚	身近な人からの紹介	書店で見て
3位	書店で見て	書店で見て	書店で見て	身近な人からの紹介	書店で見て	書店で見て	身近な人からの紹介

対象の年代に応じた広報・PRの重要性

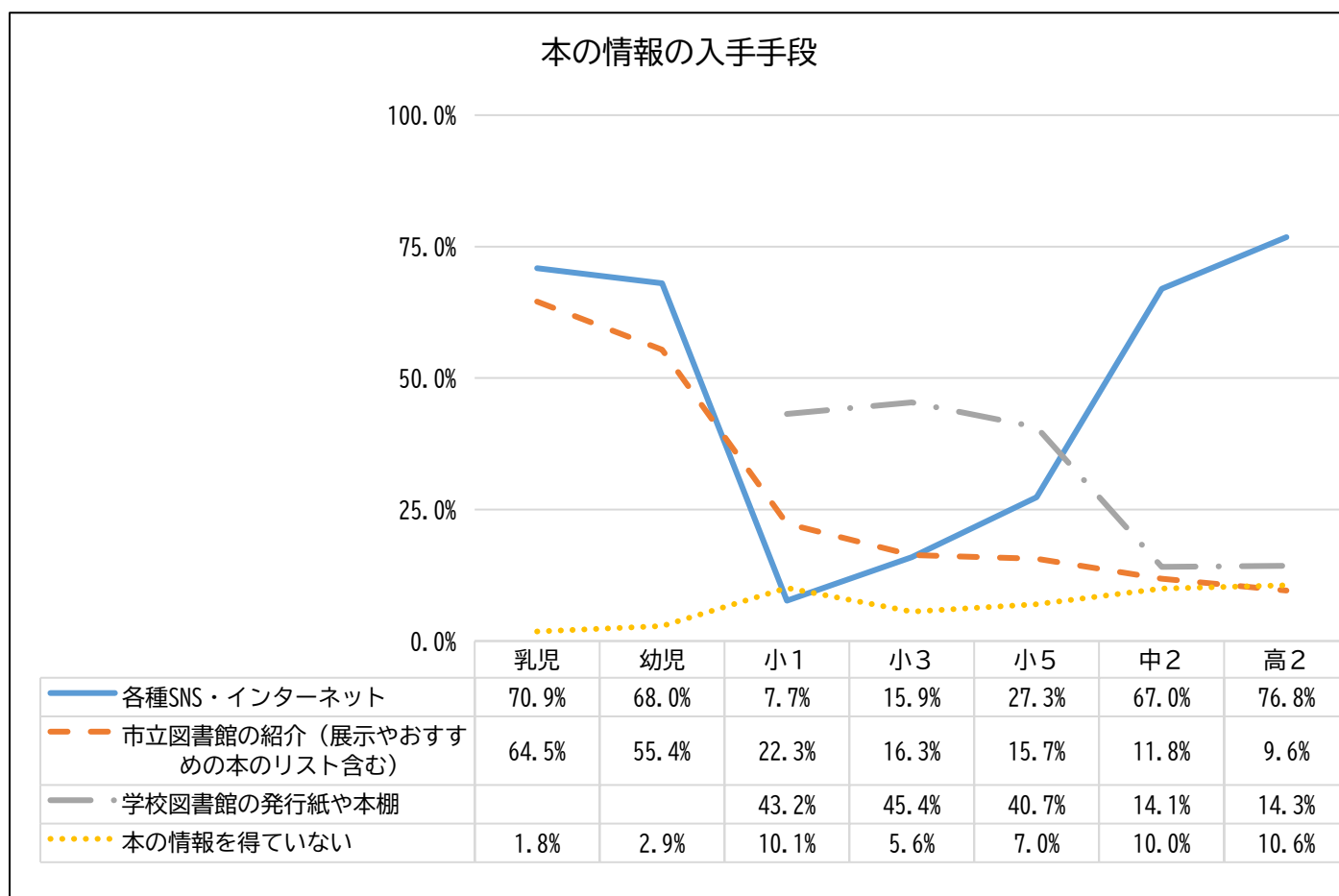
1 設問

「本の情報をどこから得ていますか。(いくつでも)」

2 回答からの傾向

- (1) 乳幼児の保護者及び中学生・高校生は、主に各種 SNS・インターネットから本の情報を得ている。
- (2) 小学生は、学校図書館や身近な人の存在が大きい。
- (3) 乳幼児の保護者の半数以上は、市立図書館の紹介（展示やおすすめの本のリスト含む）により、本の情報を得ている。
- (4) 本の情報を得ていない人は、どの年代でも 0～1 割程度である。

3 集計結果



（参考）年代別回答上位の比較

	乳児(保護者)	幼児(保護者)	小1	小3	小5	中2	高2
1位	各種 SNS・インターネット	各種 SNS・インターネット	学校図書館の発行紙や本棚	学校図書館の発行紙や本棚	身近な人からの紹介	各種 SNS・インターネット	各種 SNS・インターネット
2位	市立図書館の紹介(展示やおすすめの本のリスト含む)	市立図書館の紹介(展示やおすすめの本のリスト含む)	身近な人からの紹介	書店で見て	学校図書館の発行紙や本棚	身近な人からの紹介	書店で見て
3位	書店で見て	書店で見て	書店で見て	身近な人からの紹介	書店で見て	書店で見て	身近な人からの紹介

読書習慣に対する読み聞かせ経験の影響

1 設問

「(お子さん(中高生は回答者本人)について、) あてはまるものを選んでください。」

2 回答からの傾向

小学校中学年までは、読み聞かせをしてもらった経験が、現在読書をしているかに影響している。

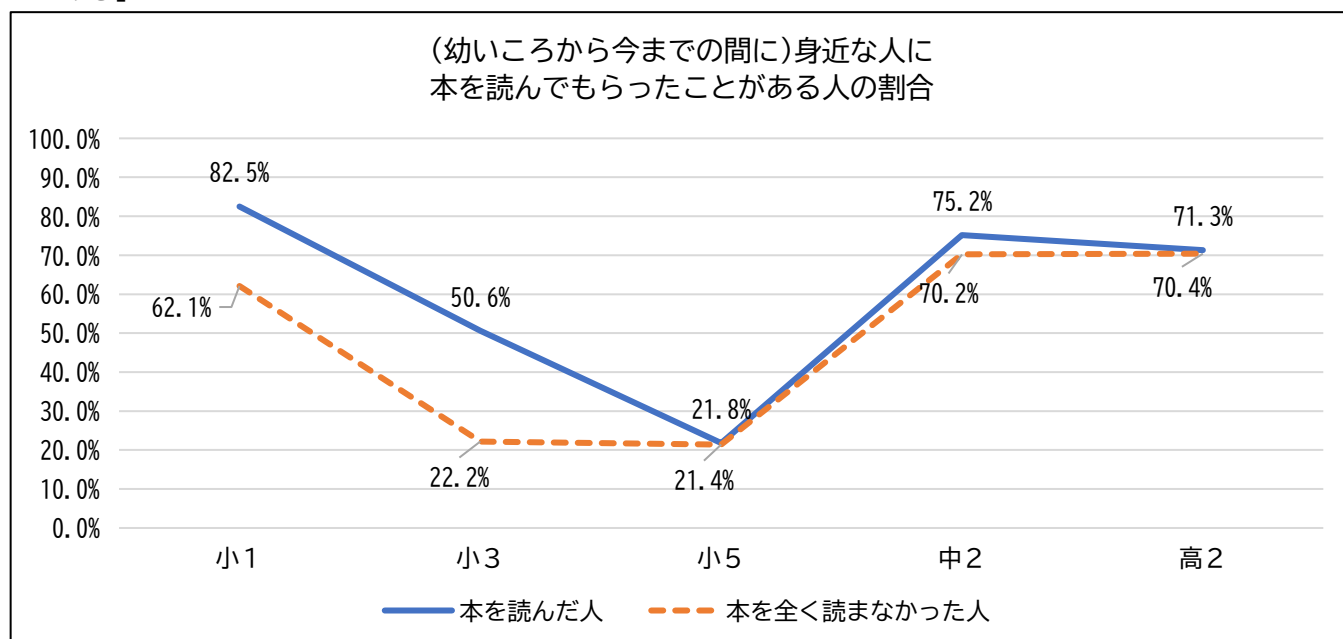
また、どの年代でも、本を読んだ人の方が読み聞かせをしてもらった割合が高く、読み聞かせの経験が読書習慣の形成に影響している。

3 集計結果

(1) 設問「(お子さん(中高生は回答者本人)について、) あてはまるものを選んでください。」

小学生「身近な人(家族・先生・友達)に本を読んでもらったことがある」

中学生・高校生「幼いころから今までの間に、身近な人(家族・先生・友達)に本を読んでもらったことがある」



身近な人に本を読んでもらったことがある人の割合は、小学1年生と3年生では「本を読んだ人」と「本を全く読まなかった人」で大きく差がある。一方で、小学5年生以降はほとんど差がなくなる。読み聞かせをしてもらった経験が、現在読書をしているかに影響するのは、中学年までであるといえる。

(参考) 東京都教育委員会「令和6年度 子供読書活動推進に関する調査」

・「身近な人(家族・先生・友達)に本を読んでもらったことがある」と答えた人の割合

	小1	小3	小5	中2	高2
読み終わった本が1冊以上ある	84.7%	51.8%	28.3%	11.2%	9.3%
途中まで読んだ本はある	71.7%	45.1%	24.9%	7.1%	7.7%
本を全く読まなかった人	67.7%	33.3%	17.9%	4.5%	4.2%

身近な人との本を通したコミュニケーションや読書に結びつく活動・環境の重要性

1 設問

「(お子さん(中高生は回答者本人)について、) あてはまるものを選んでください。」

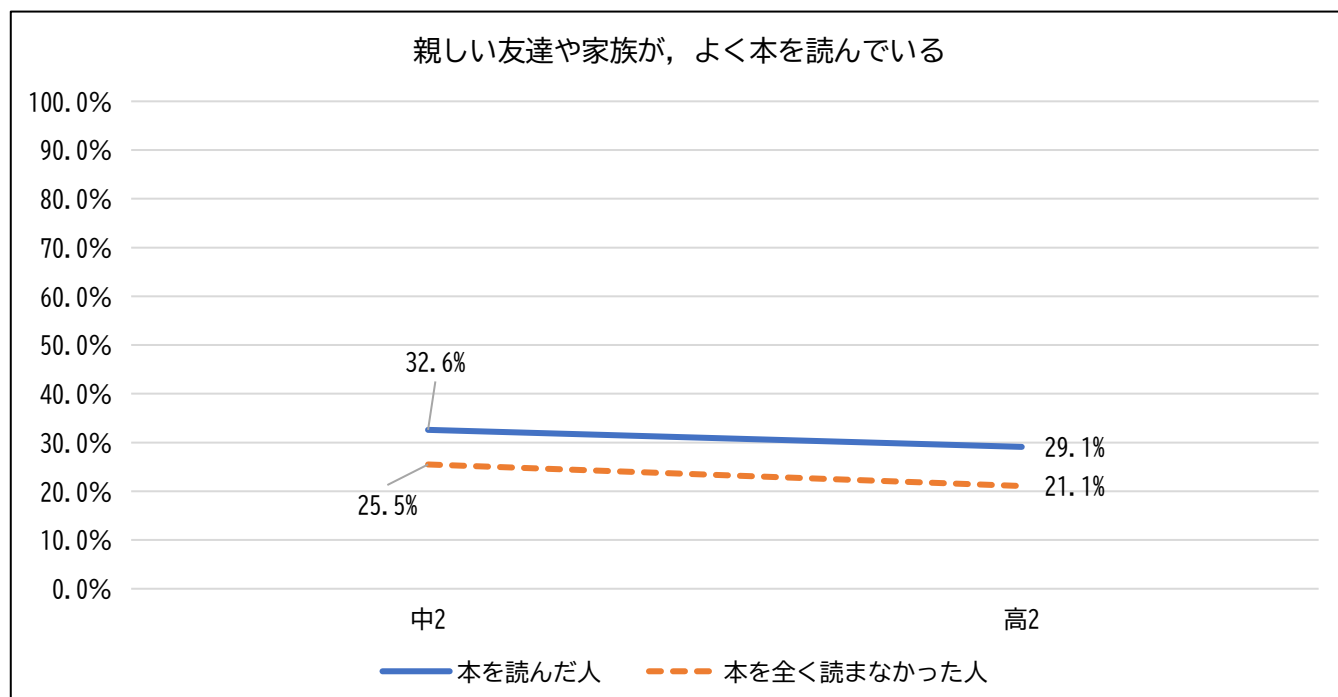
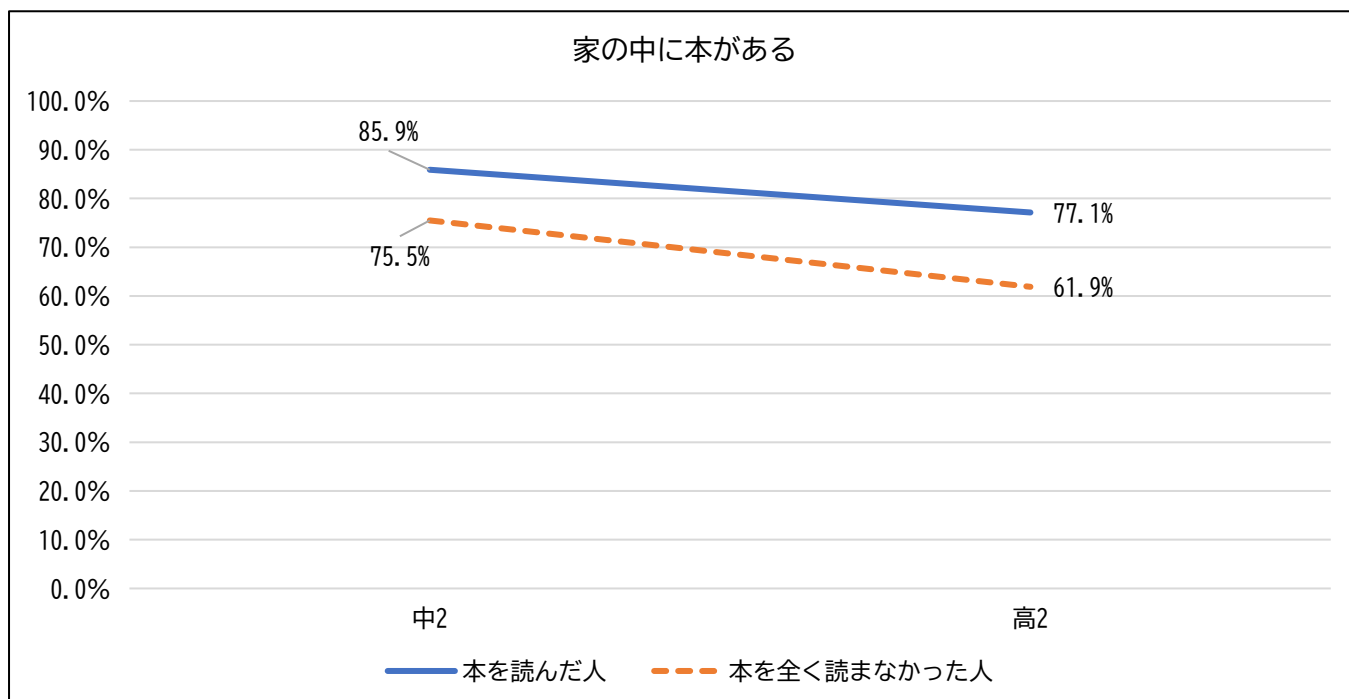
2 回答からの傾向

子どもが本を読むには、ただ身近に本があるということだけではなく、本を通したコミュニケーションができる人がいることが重要である。特に小学生にとっては、家庭における読書に結びつく活動や環境が、本を読むことに大きく影響する。

3 集計結果

(1) 設問「(お子さん(中高生は回答者本人)について、) あてはまるものを選んでください。」

中学生・高校生「家の中に本がある」「親しい友達や家族が、よく本を読んでいる」

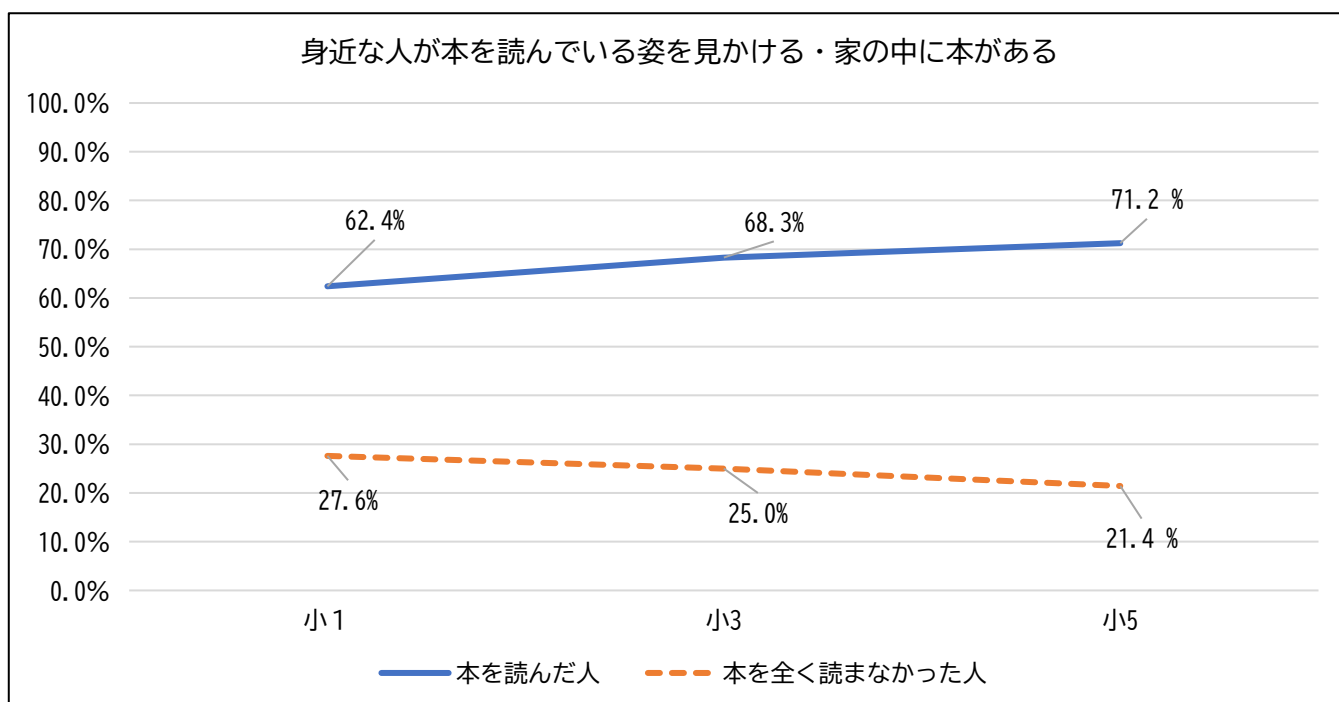


家の中に本があると答えた人の割合は、本を読んだ人と全く読まなかった人のどちらも、60%をこえている。また、その差は10～15%程度であり、半数以上の人の家には本があることから、本があるだけでは読書につながらないということがわかる。

また、親しい友達や家族が本を読んでいると答えた人の割合も、本を読んだ人と読まなかった人で、大きな差はみられなかった（10%未満）。中高生においては、身近な人が読書をしていることも多少影響するが、本人の趣味・嗜好がある程度固まっているため、読書時間の確保や宿題・課題への本の活用促進など、多方面からのアプローチが必要である。また、本が家の中にあるにもかかわらず、身近な人（家族など）が本を読んでいると答えた人が35%未満であることから、家庭への読書活動の推進も重要である。

(2) 設問「(お子さん(中高生は回答者本人)について、)あてはまるものを選んでください。」

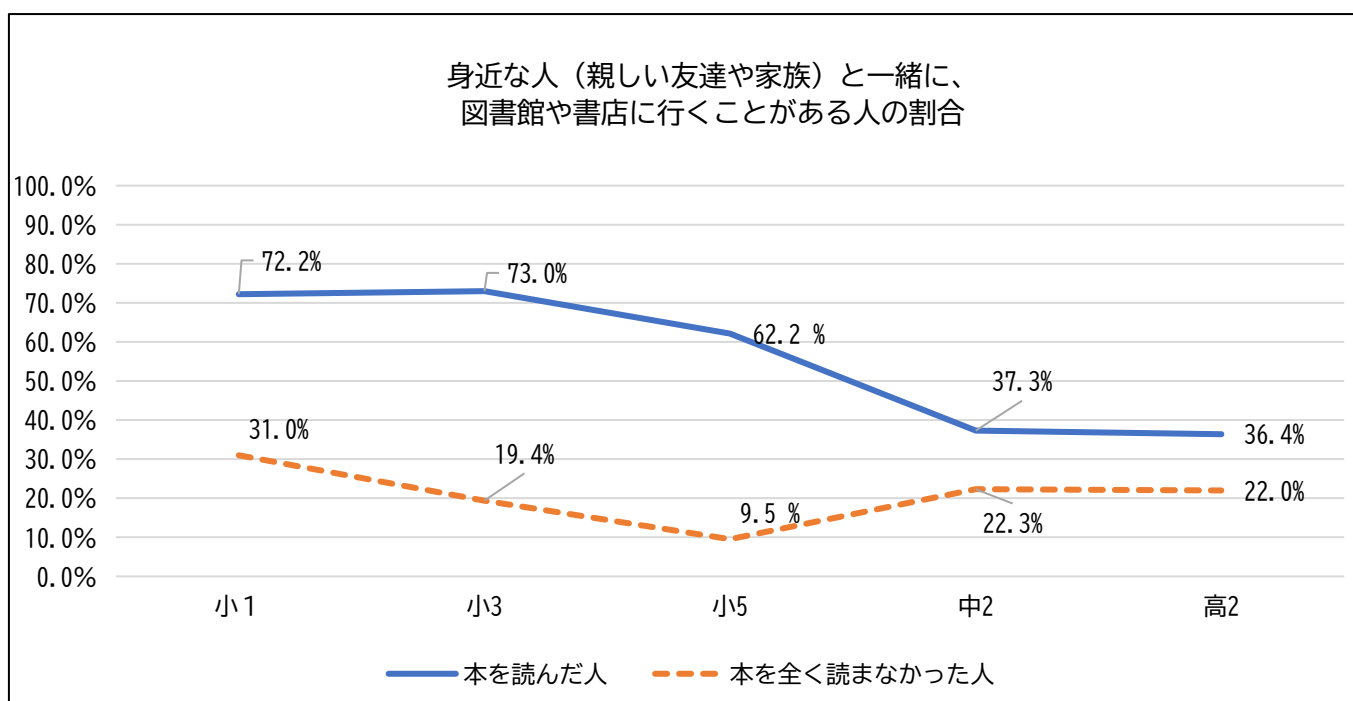
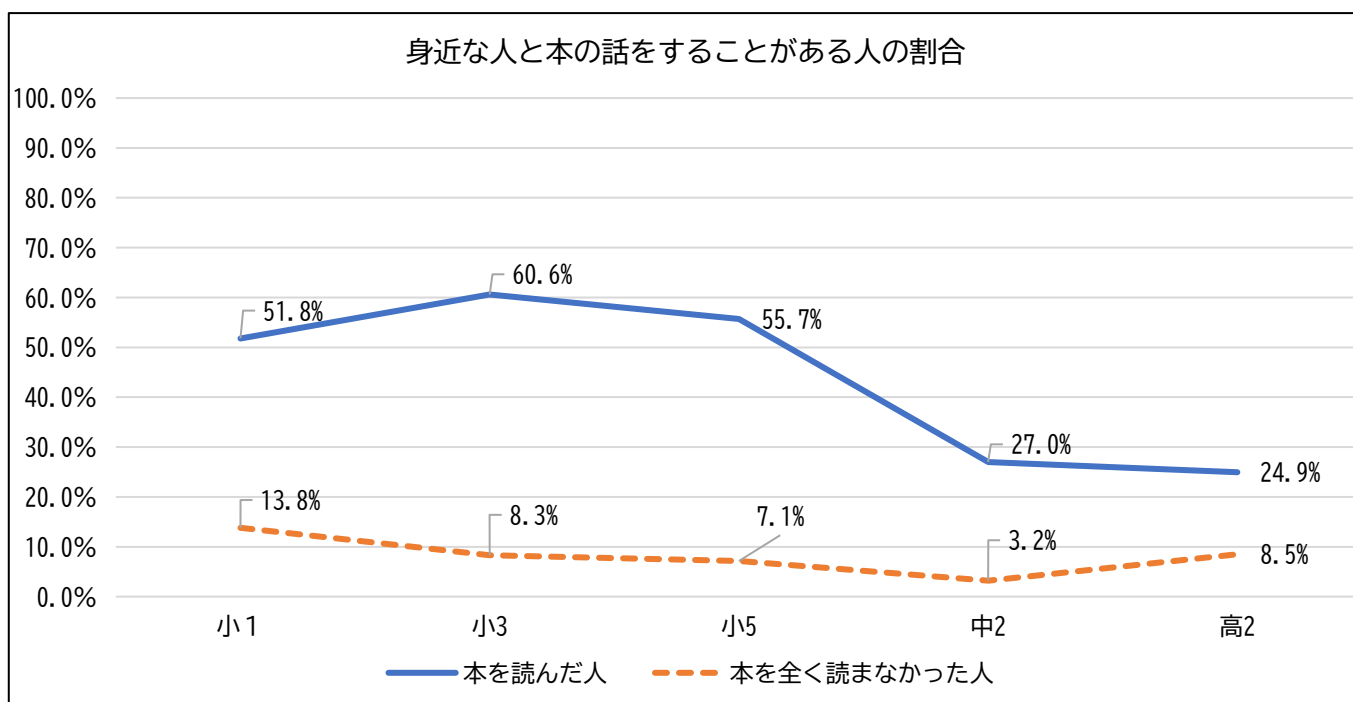
小学生「身近な人が本を読んでいる姿を見かける・家の中に本がある」



一方で、小学生においては、「身近な人が本を読んでいる姿を見かける」・「家の中に本がある」と答えた人の割合は、本を読む人と読まなかった人で、大きな差がみられる。

(3) 設問「(お子さん(中高生は回答者本人)について、) あてはまるものを選んでください。」

全学年「身近な人と本の話をすることがある」、「身近な人(親しい友達や家族)と一緒に、図書館や書店に行くことがある」



「身近な人と本の話をする人がいる」と答えた人の割合についても、すべての年代において、本を読んだ人と読まなかった人で差が出る結果となった。中学生・高校生ではやや差が縮まるが、ほかの選択肢と比べるとその差は大きく、本の話ができる身近な人の存在は重要といえる。

また、「身近な人(親しい友達や家族)と一緒に、図書館や書店に行くことがあがる」と答えた人の割合も、小学生では、本を読んだ人と読まなかった人で40%以上の差があった。中学生以上では、差は縮まるものの、およそ15%の差がでており、この選択肢からも、身近な人とともに本に触れる機会があることが重要だとわかる。

電子図書について

1 設問

- (1) 設問「読んだ本の中に電子書籍はありますか」
- (2) 設問「市立図書館に大事だと思うものは何ですか。」

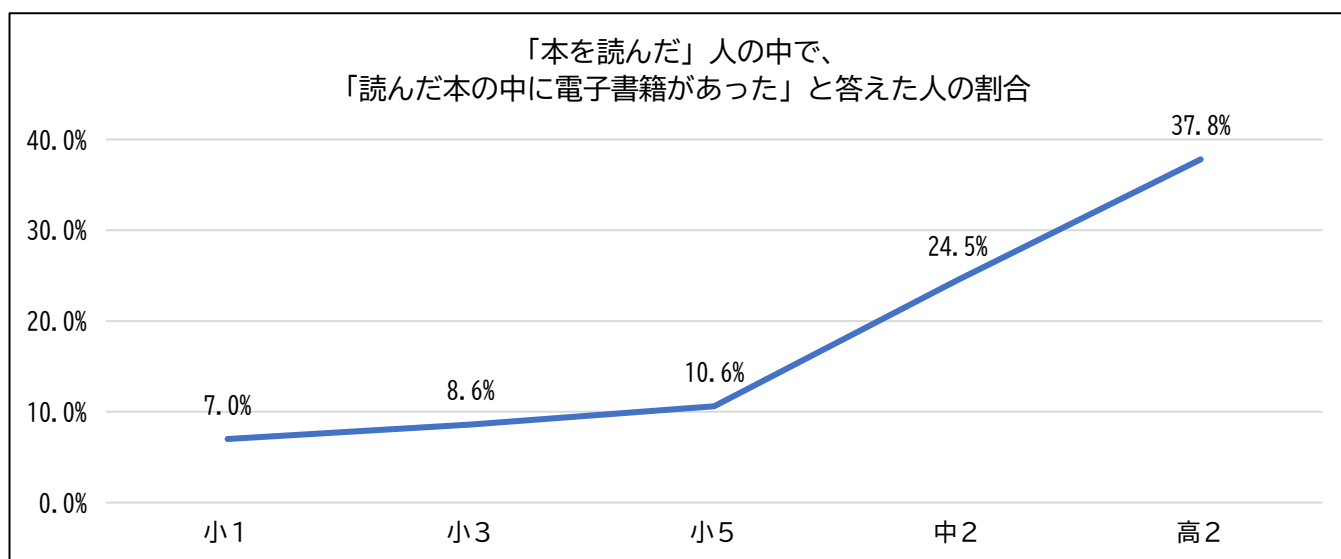
2 回答からの傾向

どの年代においても電子図書を利用している人がある一方で、図書館へのニーズは低い。

3 集計結果

- (1) 設問「読んだ本の中に電子書籍はありますか」

全学年「はい」（読んだ本の中に電子書籍があった）



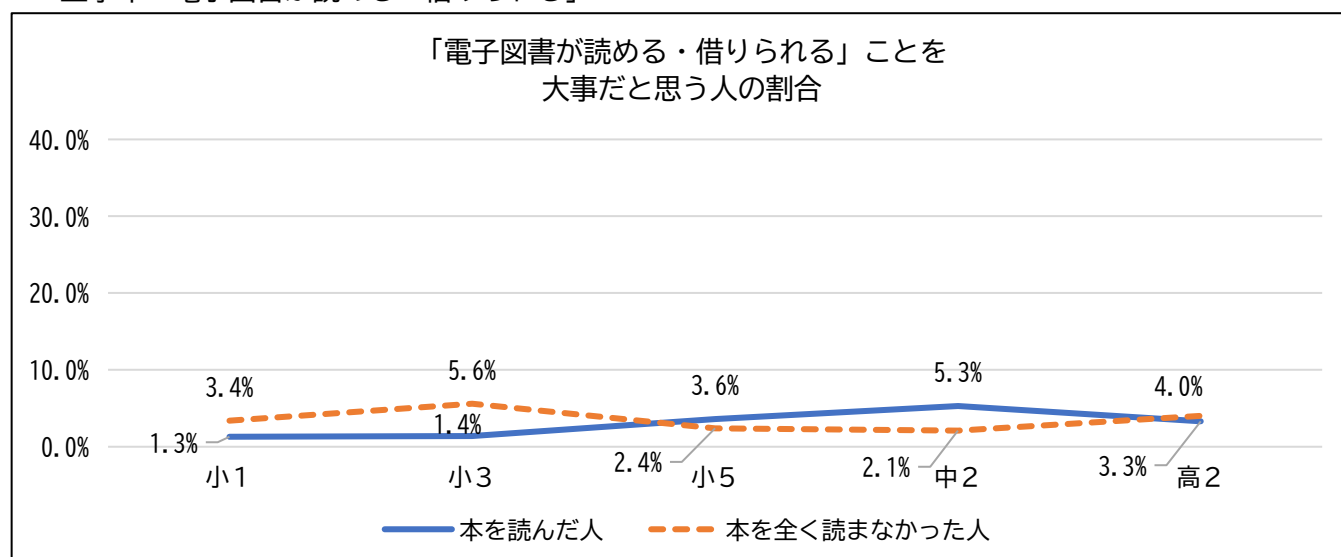
（参考）東京都教育委員会「令和6年度 子供読書活動推進に関する調査」

・「本を読んだ」人のなかで、「読んだ本の中に電子書籍があった」と答えた人の割合

小1	小3	小5	中2	高2
17.7%	18.1%	22.9%	28.2%	33.7%

- (2) 設問「市立図書館に大事だと思うものは何ですか。」

全学年「電子図書が読める・借りられる」



年齢が上がるにつれて、電子図書を読む人の割合は増えているが、「電子図書が読める・借りられる」ことが図書館にとって大事だと思う人の割合は、どの年代も6%未満にとどまっている。

図書館における居場所機能の重要性

1 設問

- (1) 設問「市立図書館を使いたいと思うのはどんなときですか。」
- (2) 設問「市立図書館に大事だと思うものは何ですか。」

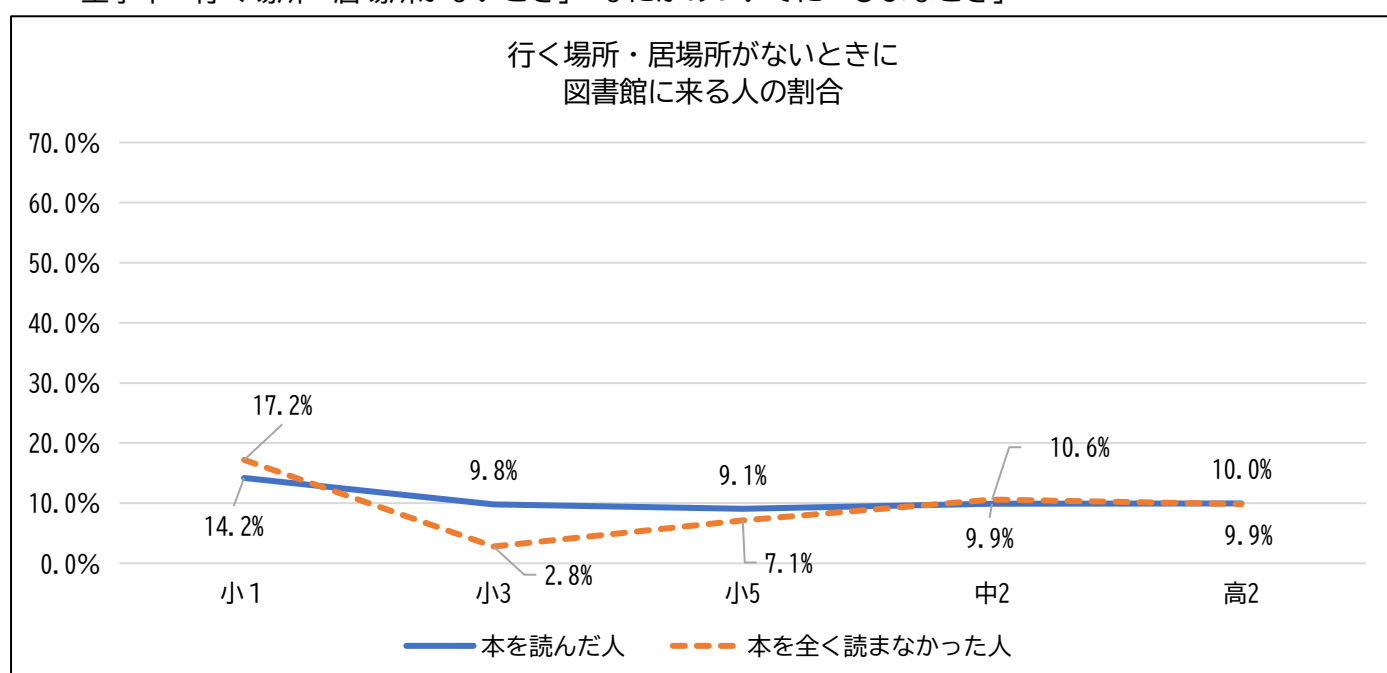
2 回答からの傾向

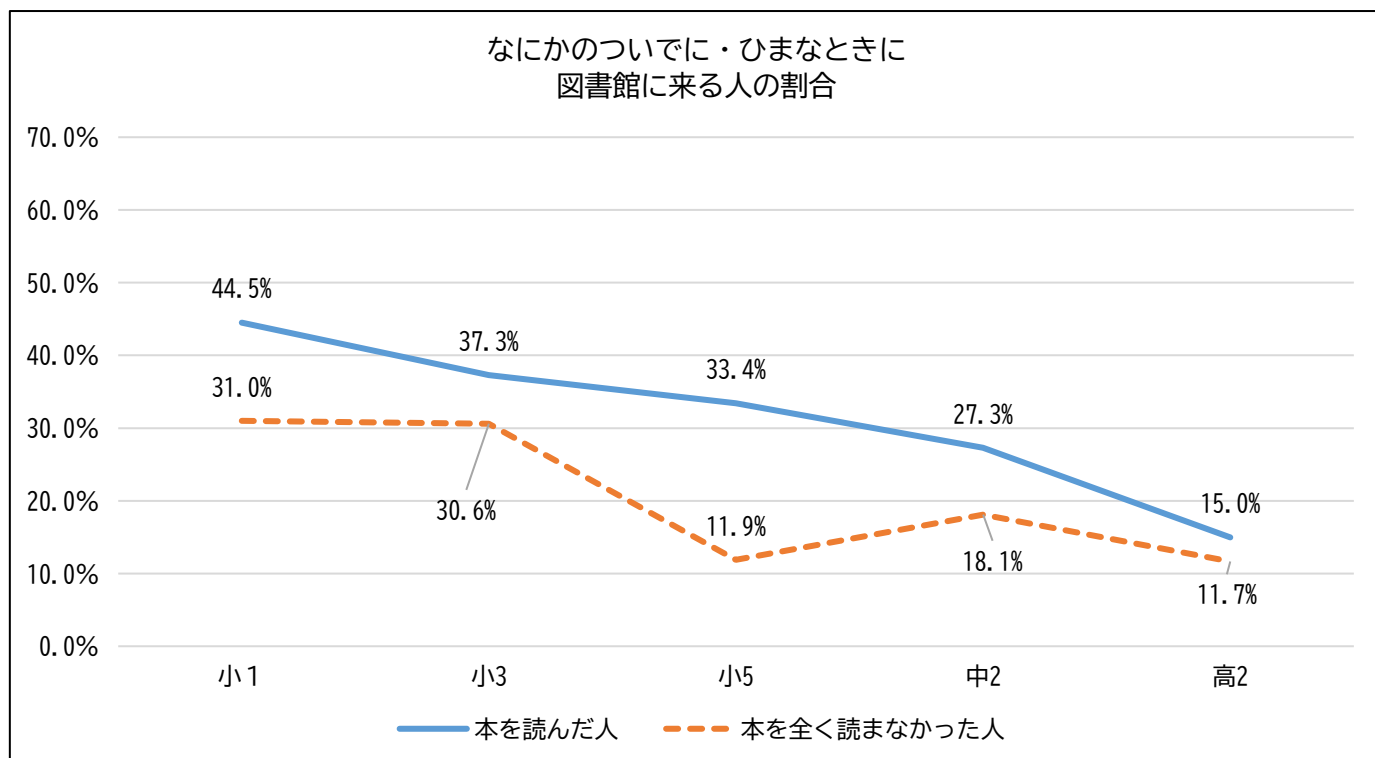
図書館は、子どもたちの居場所として活用されている。また、本を全く読まなかった人にも、読書や勉強ができる居場所として求められており、特に、勉強ができるスペースであることについては、中学生・高校生のニーズが高い。

3 集計結果

- (1) 設問「市立図書館を使いたいと思うのはどんなときですか。」

全学年「行く場所・居場所がないとき」「なにかのついでに・ひまなとき」

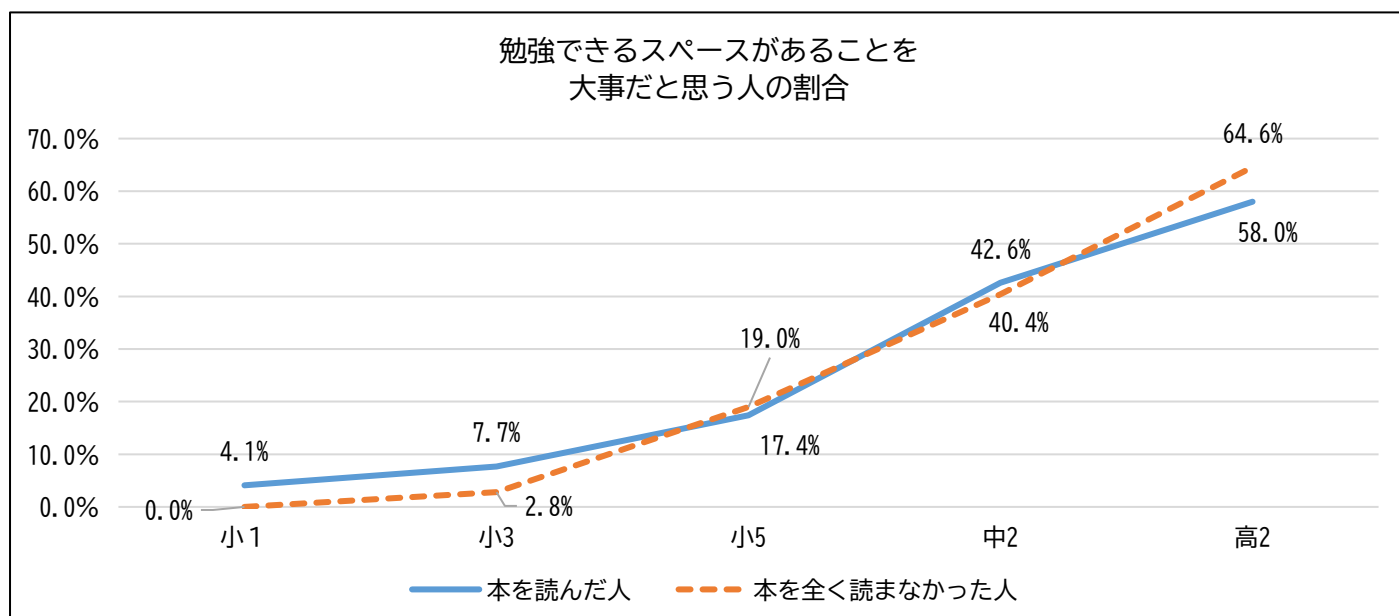




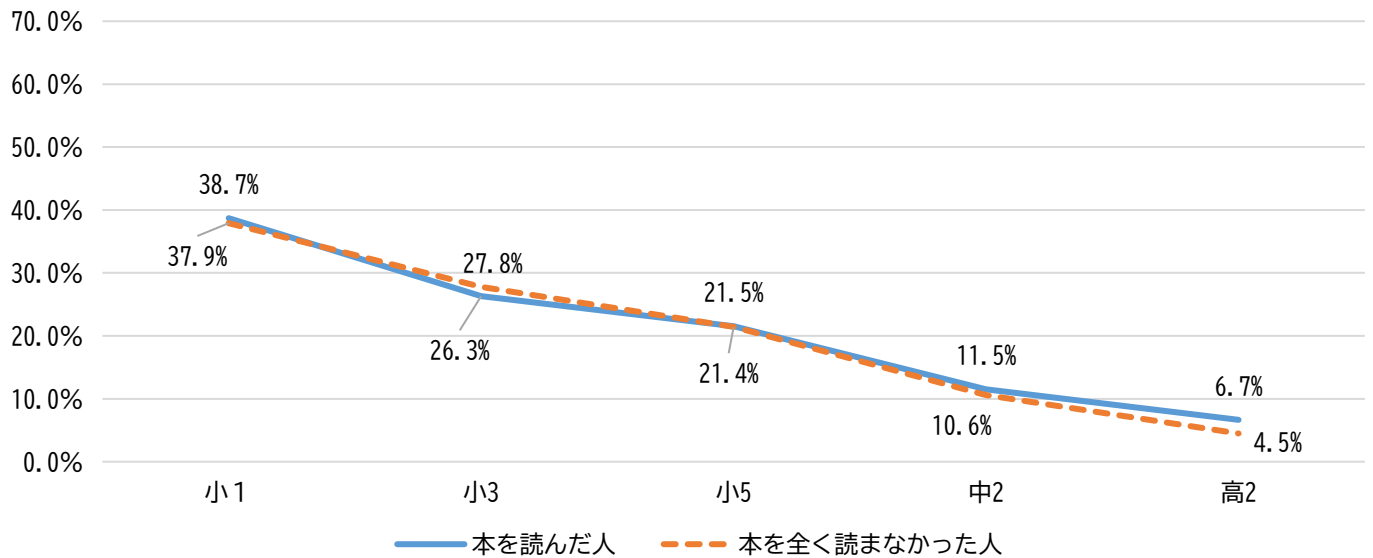
(2) 設問「市立図書館に大事だと思うものは何ですか。」

全学年「勉強できるスペースがある」、「友達や家族と一緒に本を楽しめるスペースがある」

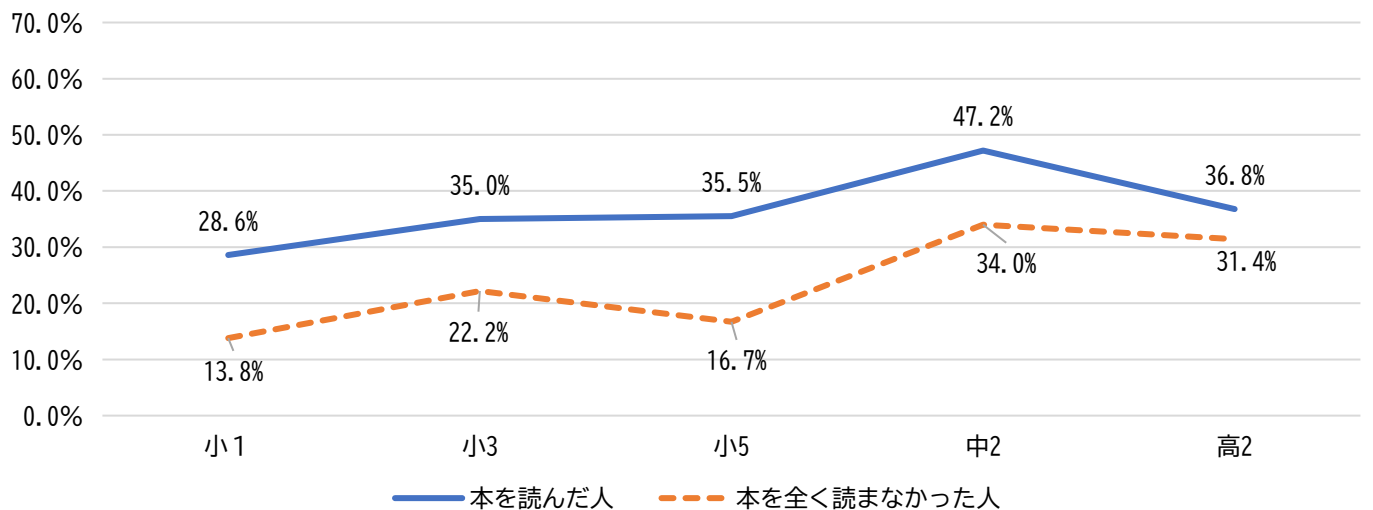
「落ち着いて本が読める」



友達や家族と一緒に本を楽しめるスペースがあることを
大事だと思う人の割合



落ち着いて本が読めることを
大事だと思う人の割合



年代や本を読んでいるか・いないかに関係なく、「行く場所・居場所がないとき」や「なにかのついでに・ひまなとき」に図書館へ来館している。

また、図書館に大事だと思うものとして、「勉強できるスペースがある」を選択した人の割合は、年齢が上がるとつれて高くなっていく。特に高校生は、本を読んでいるか・いないかに関係なく 50%以上の方が勉強できるスペースを求めており、本を全く読まなかった人の方が、読んだ人よりも数値が高い。一方で、「友達や家族と一緒に本を楽しめるスペースがある」を選択した人の割合は、年齢の低い方が高い。どちらの選択肢も、本を読んだ人と全く読まなかった人では、大きな差はなかった。「落ち着いて本が読める」ことも、年代や本を読んでいるか・いないかに関係なく求められている。

図書館が、居場所として活用されていること・読書や勉強ができる居場所として求められていることがわかる。

図書館が開催するイベントの課題（広報・ニーズ把握）

1 設問

- (1) 設問「市立図書館に大事だと思うものは何ですか。」
- (2) 設問「市立図書館を使いたいと思うのはどんなときですか。」

2 回答からの傾向

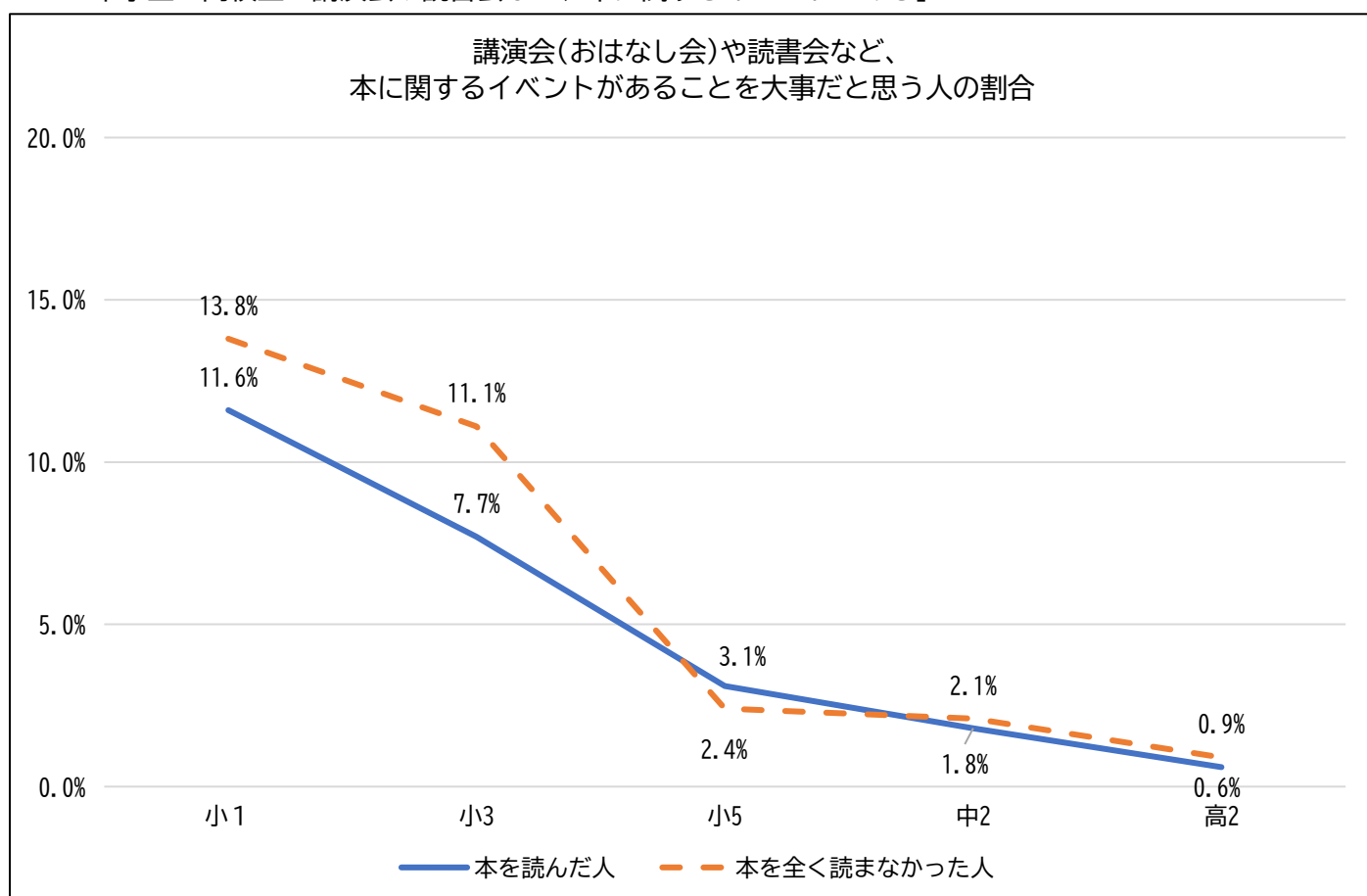
図書館が本に関するイベントを開催することは求められているが、本を読んでいない人が来館する理由にはつながっていない。必要な人へ情報が届いていない可能性や、本を読んでいない人が抱えるニーズを捉えきれないことが考えられる。

3 集計結果

- (1) 設問「市立図書館に大事だと思うものは何ですか。」

小学生「おはなし会や読書会など、本に関するイベントがある」

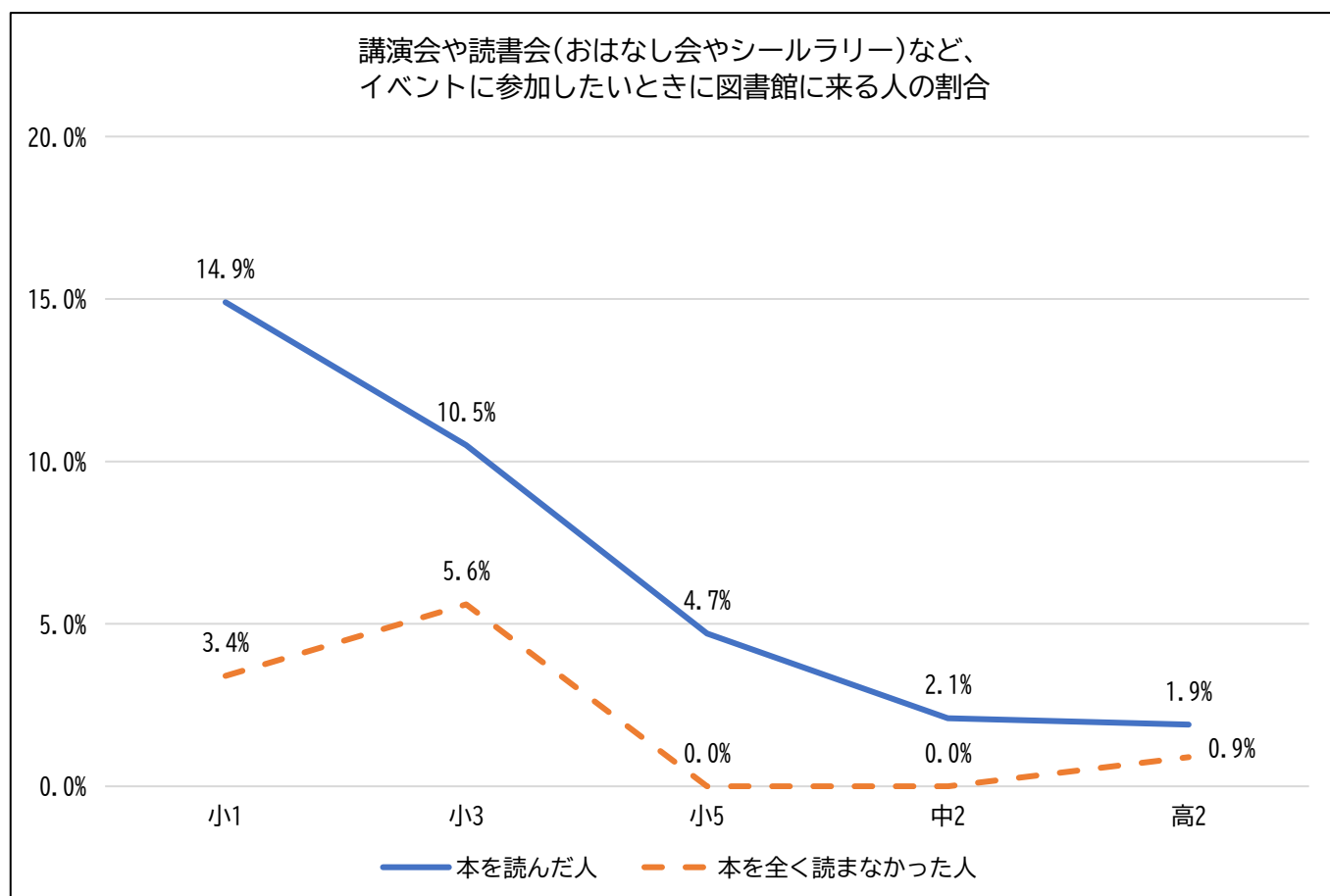
中学生・高校生「講演会や読書会など、本に関するイベントがある」



(2) 設問「市立図書館を使いたいと思うのはどんなときですか。」

小学生「おはなし会やシールラリーなど、イベントに参加したいとき」

中学生・高校生「講演会や読書会など、イベントに参加したいとき」



図書館に大事だと思うものとして、「講演会(おはなし会)や読書会など、本に関するイベントがある」を選択した人の数は、本を全く読まなかった人の方が多い。高学年になるにつれ、数値自体が下がる傾向はあるが、本を読んだ人の方が本を全く読まなかった人を上回ったのは小学5年生のみであった。本を全く読まなかった人も、図書館にイベントの開催を求めていることがわかる。

一方、図書館への来館理由として「イベントに参加したいとき」を選択した人は、全学年をとおして、本を全く読まなかった人より、本を読んだ人の割合が高い。本を読んだ人は、イベントの参加のために図書館を利用することがあるということがわかる。また、本を全く読んでいない人は、図書館にイベントの実施を求めている割合が読んだ人よりも高い傾向にある一方で、来館する理由にはつながっていないことがわかる。

調べものに対する情報収集手段の使い分け

1 設問

「市立図書館を使いたいと思うのはどんなときですか。」

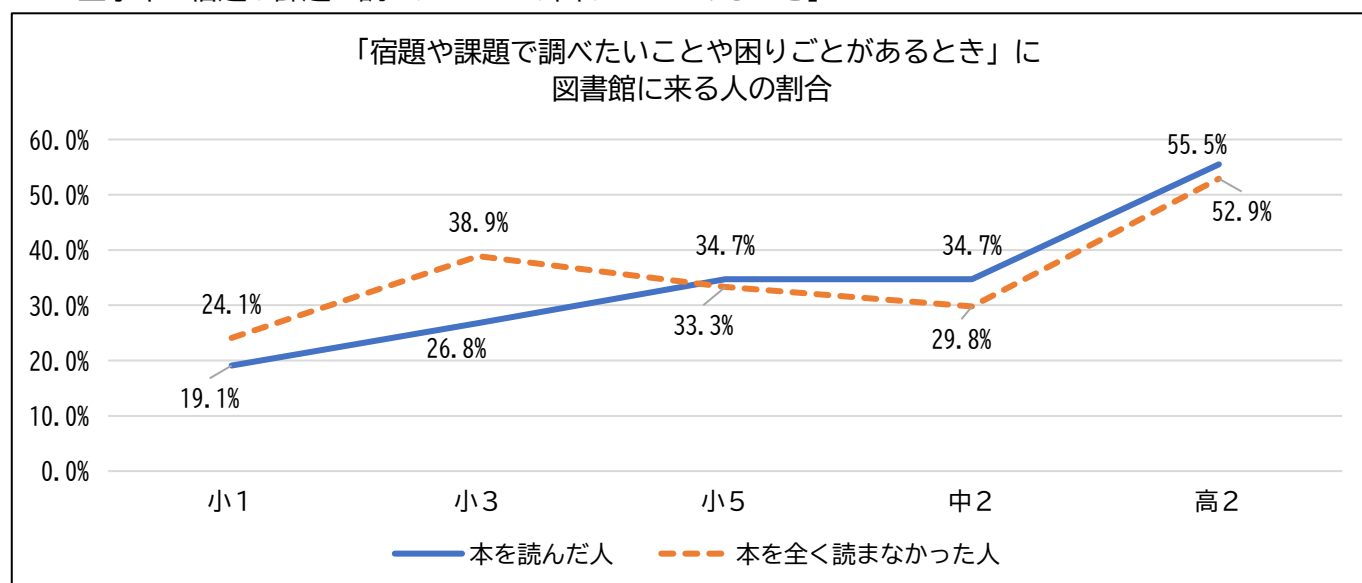
2 回答からの傾向

何を調べるかによって、本とそれ以外の媒体を使い分けている。宿題や課題について調べるときは本を使い、生活の中で生じた知りたいことや困りごとを調べるときは、本以外の媒体(スマートフォン等)を使っている。

3 集計結果

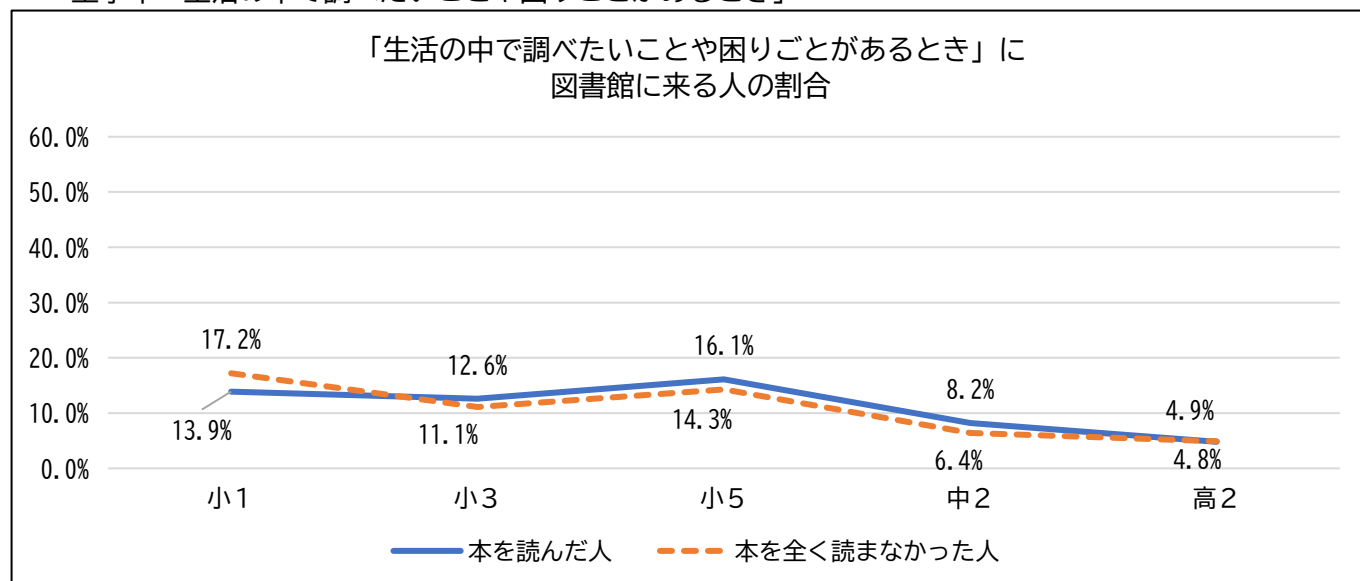
(1) 設問「市立図書館を使いたいと思うのはどんなときですか。」

全学年「宿題や課題で調べたいことや困りごとがあるとき」



(2) 設問「市立図書館を使いたいと思うのはどんなときですか。」

全学年「生活の中で調べたいことや困りごとがあるとき」



年代が上がるにつれて、宿題や課題の調べものでは、本にあたる割合が高くなっていくことがわかる。特に高校生は、本を読んでいるか・いないかに関係なく、半数以上の人が宿題や課題で本にあたっている。

一方で、「生活の中で調べたいことや困りごとがあるとき」は、年代や本を読んでいるか・いないかに関係なく、来館理由としては低い割合になっている。生活の中で調べたいことがあるときは、本以外の媒体(スマートフォン等)を使っていると考えられる。